

らじかる



第8号

ある男の自分の時間(2)



アーサー・モイゼー

アナーキスト運動の成員の中には、抽象的な暴力についてある種のロマンチックな執着をもつものが常にいる。かような人びとは他国や過去に行われた暴力活動に拍手するが、時代の政治的本質がわれわれに爆弾や銃を強要し、その結果に直面して、初めておぞましく汚い事情を知るようになるのである。

何時かは追い込まれた兎のように自衛のため、われわれが暴力に訴えなければならない時期があるだろう。これは個人と国家を問はず等しい権利である。けれど政治的暴力、またはイデオロギーの暴力によって無辜（むこ）の人が死ぬとすれば、もはやその運動は正義ではないのだ。何故ならもし無罪の人が犠牲になるなら、その戦いはどういう訳で起きたのかと訊ねなければならないからだ。北アイルランドのベルファストの住民はもう何年も銃と爆弾で生活するのが日常になった。アイルランドの戦闘的分子は、暴力をロンドンに持込み、無辜の労働者の男女が死に、挫折を繰返している。アイルランドは当然自由になるだろうが勝利したとして、何週間か経つとまた偏狭な政治的従属の鎖につながれよう。そしてアイルランド解放のために死んだ人びとは賞讃されようが、この政治的暴力に巻きこまれて逝った人の名はあげられもしないだろう。今世紀の初、パリで爆弾がさく裂した時、フランスのアナーキスト達は、その

名を借りて行われた暴力を否定するだけの勇氣があった。われわれもアナーキズム運動のためとかその名によって犯される暴力行為は、何によらず吟味するだけの勇氣をもたなければならない。そしてもしその行為がそれ自体において悪であれば、また実行者がアナーキズムのためとか、それ自体は気ままな野蠻な行為にすぎないのを正当化したり言訳けるなら、それらを否定するだけの勇氣をもとう。ところでロンドンではあい変わらず爆弾騒ぎがつづき、保守党政府はストのピケットをひいただけで3名の建設労務者を3年の刑に処した。これは百年前の古い刑法、即ち1875年制定の反逆罪、財産保護法を適用したのだ。その他ストによるピケットで20ほどの裁判が予定されて居り、中産階級の保守党は労働者階級にみせしめのショーを用意している。電気がカットされ、輸送関係と炭鉱労働者が労務規制を受け、経済崩壊へきしみをたてている現状で、アナーキストが労働者の闘争において無用の歎をかこつべき時ではないだろう。そうではなくて前衛の先頭にあつてのみ、われわれの言うことが尊敬をもって聞きいられるのだ。私は進むし、ピケもはるつもりだが、自分の楽しみのためには、200ポンドもするクリスマスの手さげかごを見にピカデリーにでかけよう。この価格は英国の未熟練労働者の2ヶ月分の給料なのだ。それからカスミンの画廊を訪ね、それから「福祉国家」という名の放浪の芸人達の芸をみよう。彼等はたいまつをかざし、リュート（弦楽器の一種）を弾き歌を歌って街路をねりあるいている。それから哲学的な満足をもってアイルランドのビールを飲む。同志諸君！ わが運動は永遠だが、わたしの生命は短い、極く短いのだ。

—ロンドンだより—

エマとウーマンリブ

(5)

はしもと・よしはる

次にルソーの意見に対するメアリー・ウオルストンクラフトの反論を摘要してみよう。ルソーのは彼の著書「エミーリー」から採っている。

ルソーの意見

(1)女性に弱く受身でなければならない。女は男にとって欲びであり従属しなければならぬ。それ故主人にとって気持よく振舞うのが女の務めであり女の存在の最大の理由である。

(2)自然の指示に従うなら男女は共働すべきだ。しかし同じ職業に従うべきではない。求める目的は同じでも手段は違うべきだ。というのはその趣味と性向が違はなければならないからである。このため女性の教育は男性と常に関連していなければならない。男性にとって欲びであり有用で、男は女性を愛し尊敬するよう、女は若くしては男性を教育し、養育の世話をし、成長したら男性に忠告したり慰めを与え男性の生活

メアリーの反論

女性が自分の道徳的肉体的特長をねじ曲げても運命に従わなければならないなら、そして自己保存が彼女の活動の源泉だとするなら、他の考慮は全部除いて男性に気持よく振舞うため犠牲になりましょう。けれど私の理性は女性が男性のために作られているとは言いません。

(2)動物精気について語らない限り、心を持たない若い女を素晴らしく気持のよいものとして描いたのはルソーだけではないのです。女を弱く、そのためにいくらか美しく言うのだがここでは悟性は抜けている。女の児はおとなしく坐って人形と遊びくだらぬお話を聞いていなさい一習慣の影響こそ自然の指示だと強調するのはルソーの観察は欲びの技術が洗練されて奇怪な悪徳にまでなった国にお

が容易に気持よくするようにするのが、何時でも女性の義務であり、これを幼女時代に教えこまなければならない。…男子は体力の発展を、女子は女性の魅力を増進させること。…少年は騒々しく活動的なスポーツが好きだが少女は身を飾るもの、鏡だとか装身具、人形が好きだ。人形が好きなのは女性の運命に合った趣味である。

(3)浪費、軽薄、移り気、これらが惑溺による自堕落や強情によって引起こされる女性の欠点である。これを矯正するには女性に正しい自制を先ず教えるべきだ。

いてだけ重要です。彼は自然に帰らず、何かのためにする欲望が理性の働きを害している。そうでなかったらこんな結論は下さなかった筈です。…フランスでは少女は生れた時から訓育の代りにお世辞を聞かされ女としてあつかわれます。これが心の働きを弱め、自然は義母のように考えられている。女性に悟性がなければ理性は別な權威に依存させざるを得ません。

(3)しとやかな女性の生活が絶えず矛盾するのは何故か？答えは教育にあるのです。悟性を代償に感受性を養うと弱い人は気まぐれに支配されます。心の働きに広い活動分野が与えられると高貴な感情と動機が欲望や感性を支配するのです。

以下次号

P・エルツバッハー

『アナキズム』によせて(3)

坂入純二

パウル・エルツバッハーのアナキズム研究は著書『アナキズム』、論文「アナキズム」および私文庫に体现されている。このうち文庫に関しては、その所蔵文献の分類の仕方に彼独自の視点がうかがわれるけれども、いうまでもなく二著述の方が研究の名にふさわし

い。

著書『アナキズム』においては文献にもとづいて徹底したドグマの分析がきわめて実証的に行われている。この著書には1890年代の社会的状況を反映する社会主義の諸動向が色濃く影を落す。サンジカリズムの勃興、アナキストによるテロリズムの隆盛、社会主義陣営におけるマルクス主義の優勢、フェビアン社会主義の成立、マルクス主義内部の理論的角逐が本書の背景にある。1880年代によく着手された後をうけて、90年代はアナキズム研究が本格的に開始された時代であって、多くの研究が次々と公表された。(H. Zoccoli, *Die Anarchie, deutsche Uebers.*, Leipzig u.a., o.J. [1908年?]) SS.1~7にそれらの文献がかなりあげられており、不十分ではあるが有用である)。アドラー、シュタムラー、ネットラウ、ツェンカー、マッケイらに代表される学術的ないしは好意的な研究が相ついで発表される一方で、ベルンシュタイン、プレハーノフ、ショーなどによるきわめて党派的な研究やロングローズを筆頭とする予断、悪意、独断にみちた偏頗な研究が続出し、本書の内容と形式に大きな作用を及ぼす。この90年代の諸文献を仔細に検討することによって、アナキズムの主張とその批判の原像がくっきりとうかびあがるように思われる。

本書は1890年代を冷静に見すえ、同時代の研究を踏まえて成立した。本書を読むにあたってこのことを忘れてはならない。そしてエルツバッハーのアナキズム研究の対象と方法を論ずる前提として、当時のアナキズム研究が概観されねばならない。こうした概観によって今日の時点で本書と論文「アナキズム」にむけられるいくつかの疑問も解決されよう。たとえばタッカーの評価の極端な変化、ゴドウィン以前のアナキズムとサンジカリズムとの黙殺などがそうである

民衆と真実

くもい 流

現在、いわゆる大衆化時代とともに、民衆

運動の中に多量の政治が流入してきている。しかし、政治的真実と、民衆の真実との間には、依然として相入れないものが横たわっているのではない。

昔、幸徳秋水が田中正造の演説草稿を頼まれて、「満目荒寥、一木一草として残らず」と書いたところ、「それは困る、よく見れば木も二、三本残っているし、草も残っている」と言って、田中正造に直されてしまったそう。幸徳にしてみれば、「アジ演説」ではないか、ということになるのだろうけれど、田中正造、というより足尾銅山と闘う民衆にとって、斗いは、あくまでも自分達の真実に添うものでなければならなかったのだ。

この民衆の真実感というものは、現在では多くの場合、政治によって掻き消されてしまっているのだが、それでも民衆の奥では今も息づいている。

ある救援ニュースの中に、あるシンポジウムの席上、一人の参加者から「主催者も講師も、この事件がフレームアップであるという前提でものをいっている。私は今日出された一方的材料だけでは、それが冤罪であるかどうか判断できないから、このような会合には疑問をもつ」というような発言があった、という文が載っていた。政治主義者から見れば、このような発見は、権力側の意見も聞かなければいけないと言っているようにも取れ、反動的に見えるかも知れない。しかし、その底にあるのは、民衆の真実への感覚なのだ。

この民衆の真実感覚こそ、真に政治を撃つものとしてあるのではないだろうか。戸村一作の参議員選立候補に象徴されるように、多くの住民運動が政治へ収約されていく中で、自分達を利用するだけの政治への不信を語り、自分達だけの力で闘い続けていこうとする民衆が、例えば、カネミ油事件の被害者の中から現われてきているという現実を、忘れてはならないのだ。彼らが政治不信を持つとき、それは民衆としての彼らが持つ真実感によってなのであり、彼らの闘いを導くのもまた、民衆自身の真実感なのだ。この民衆の真実感とは、政治がどのように巨大化しようとも、民衆から抹殺することはできないだろう。

牧羊者の阿呷

櫻井 博

人間の理性を明澄にしながら現実社会の矛盾した生活秩序や醜悪な日常性を否定して、人間の願望のなかにある生の昂揚に、自己の存在の証憑というものを自覚しつゝ、俗の世界とあきらかに対比したところで意志を炸裂させ表現することが行なわれなくてはならない。自己意志の思考論理の干からびた理性に生気をよみがえらせることが必要なのである。

明治以来の我国において新思想の建設というものが、すべて西洋思想によって、その方向と内容が定まってきた。それは政治的、社会的にも細工的に造りあげ、人間存在の思惟的主体としての真の「我」の確立が隠者風に行なわれてきたということである。

自力自身の想念というものが、自己の内に向って閉ざす瞬間における思想は〈感傷的な一思想〉であり、批判的・創造的なきびしさを耐えぬく思想とはなりえず、ただ泰然自若としているのでは、権力と闘えないのである。

『一度、一切を否定し、絶望しない限り創造者とはなり得ない』この超人的な心境にまぎれ立つところから、思想と表現の調和バランスの秤衡を考えながら、唯一の生活上の創作史を試みていかななくてはならない。

人類のめざす理想の社会は、アナキズムの社会であるという設問をたてたとき、そのアナキズム社会の構造と機能の相関についての考察はいままで数多くのアナキストたちによって問いなおされてきた。日本においても西欧の近代アナキズム思想がはいってくる以前に「有限超越のユートピア思想」があった。それは現実とは異質な空間を構想する——常世的ユートピア思想——である。

古代神話のもっているユートピア性は、原

始において人間が生きていくために人間と自然の間で、不可避免的にユートピア性を含みつつ、共同体生活がその増進力となった。原始古代の神話は、権力が国家神話を望んで利用する政治神話とは異なり、生活主体の中から生じた純粹の平和の樂園の觀念の「常世の国」であったのだ。

個人の理性に信頼を置いた近代の「常世の国」追求者たちの運動原理はテロやアナクロニズム的な暗いイメージを連想させるものがある。それはユートピアの幻想に薄弱な己れの感性の没却はつきやくを意味することより起るものではないだろうか。あえて貧弱な幻影を追うようなことは創造的情熱家のすべきことではない。創造者のさまざまな心ざまはときとして雄々しい勇気をもったものとして固有の力を伸ばし炸裂するものである。

受 贈 書

「死」 No. 3 安楽死解放戦線 神奈川県相模原市林間6-5-22 ようらく荘18号 松村 要 (安楽死を他殺と捉え、〈誰でもいつでもどこでも自由に生きられる社会をつくる〉としてその解放を唱えている。)

リベロ 月刊13 リベロ社京都左京区田中門前町28の5 編集 中村隆司 (〈韓国のアナキズム運動の現状〉が要約されつつある。注目せよ。)

無名通信 No. 28 無名通信社刊 (糸を曳く一くらしと性と(二)一ではくらしの中での男女の役割と性の指定する役割のき裂、混交が観念的に指摘されている。)

長野共同新聞 長野市高田中村沖3の3守田荘 (再開された本紙は天皇制についてのアンケートを収集発表している。しかし答はおおむね知識と経験の断片であり、今ひとつ盛上りを欠くうらみがあるようだ。)

1973年12月1日発行 編集者 櫻井 博 発行者 はしもとよしはる

発行所 東京都新宿区東大久保1-464 松喜ビル イデア出版

郵便番号160 TEL 354-1039 振替 東京64906 年間購読料 300円